

● 研修会特集
事例報告 (3)

医学図書室を患者さんに
公開して

渡邊 幸代

日本赤十字社医療センターでは平成 15 年 7 月、院長の提案により、職員専用の医学図書室内に「やさしい医学書コーナー」（以下医学書コーナーという）を開設した。近隣に書店があることや、昭和 52 年より院内ボランティアが一般図書の移動サービスを行っているため「医学書コーナー」には文学書や健康図書は置かず、看護や医学の教科書の中から比較的わかりやすいと思われる図書を選んで配架した。患者さんとそのご家族は「医学書コーナー」を含めた図書室全体の利用が可能となった。さらに平成 16 年 3 月より患者さん用のパソコン端末が設置され、有料ではあるがインターネットが利用可能となった。

利用状況は 1 日平均 1.5 人、全利用者の 75% は患者さん本人である。利用者数がそれほど多くないのは、図書室の設置場所が病棟であることや、「やさしい…」とはいえ専門書がほとんどであり、調べる図書室を前面に打ち出しているためと思われる。利用者が公共図書館など一般的な方法では入手できなかったことを調べたり確認するために訪れている点が特徴的である。レファレンスで深刻な病名の資料を提供した患者さんには、総合医療相談室の看護師が相談にのっていることを伝えている。入院患者さんがインターネットをよく利用するため、4 月以降はパソコンの利用者数が増加した。

WATANABE Sachiyo
日赤医療センター 図書室

● 研修会特集
事例報告 (4)

日本医学図書館協会
「ヘルスサイエンス情報専門員」
資格認定の経験

天野いづみ

I. はじめに

昨年、日本医学図書館協会の「ヘルスサイエンス情報専門員」認定資格制度が開設され、第 1 回の認定に申請したので報告する。

II. 認定資格について

日本医学図書館協会が、ヘルスサイエンス分野の図書館等の機関で、保健・医療情報に関する専門知識・技能を有する者を認定する制度である。資格には、初級、中級、上級があり、それぞれ実務年数、ポイント数等の条件があり、5 年以内に更新が必要である。原則として同協会会員で司書資格を有する者が対象であるが、会員外、司書資格がない者でも申請が可能である。ポイント申請の記入方法やポイント表は、同協会のホームページで確認できる。

III. 第 1 回申請結果

今回は、60 名が認定を受けた。申請は、私立大学 28 名、病院 17 名と多く、級も上級 32 名、初級 16 名、中級 12 名の順であった。

IV. まとめ

第 1 回は、予想以上に申請数が多く、また認定審査側も、個々の業績の評価など、まだ判断が定まらず、回を重ねつつ評価基準を確立していくようである。この認定制度は、まだ知名度が低く、資格として役立つものではないが、自分自身の研鑽、レベルアップを意識させられるものである。初回申請より 2 回目からの更新が難しく、より一層の努力が必要である。

AMANO Izumi
静岡赤十字病院 図書室
library@shizuoka-med.jrc.or.jp